

第33回

うつのみやこども賞だより

平成28年度 6回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『セカイヲカエル』

嘉成晴香／著（朝日学生新聞社）

～読んだ本の感想より～



- 現代と昔、どちらもこの物語でできて、比かくなることができて、おもしろかった。あやとのいた時代が楽しそうでいいなと思った。
- 20年前にタイムスリップという予想もつかぬてんかひがあり、意外なことおどろくことがいっぱいだったので、どんどん読み進めました。
- タイムカプセルをあけると、他のみんながどうなっているのかが気になる。
- 大きく世界を変えることはできなかったけど、少し変えられてよかったと読んでいて思いました。

●彩人と連司は、過去と現在に分かれていても、いっしょうけんめい自分のやれることをやっていたら良かった。

●タイムスリップ系の本の中で一番面白かったです！

●1人の主人公はファンタジーを、もう1人の主人公は現実味を帯びたいじめについてを描いていて、今まで読んだことのない面白い本だと思った。

『さっ太の黒い子馬』 小俣麦穂／著（講談社）

●さっ太が黒い子馬のためにたくさんの試練をクリアしていく勇気がすごい。また、物語でもらうものは、かんたんには手に入らないことを、改めてじっかんした。

●さっ太と千吉が黒っこをめぐる戦いの試練中がとてもわくわくしました。

●千吉の気持ちの変化も見ていて面白かったです。

●さっ太がひまりのことをおひさまと読んでるのがおもしろかったです。私も、黒い馬がほしくなりました。

●黒っこを見てみたいと思いました。仲間の大切さがわかりました。

●ぼうけん感があふれる作品でした。

『もりもりさまの森』 田島征三／著（理論社）

●ショベルカーなどから身を守る動物たちの勇かんさに、とても感動した。

●たくさんの「森の動物」たちが力を合わせて森を守ろうとしているところに感心した。

●動物たちの森を人間のためだけに開発するのはひどいと思った。

●私たちも今ある自然を大切にすることが一番だと思える、自然について考える機会になる本でした。

●森はやっぱり大切にしないといけないんだなと思いました。

●人間たちはもっと工夫して、動物たちの住みかをこわさないようにしていかなければならないと改めて感じた。

『レイさんといた夏』 安田夏菜／著（講談社）

●本当は早くじょうぶつしてほしかったけど、その時になると、わかれるのが悲しくなってしまう、りおの気持ちがわかった。

●レイさんに出会って、主人公の気持ちがかわっていくのがおもしろかったです。

●莉緒が茜ちゃんと最初の方はうまくいっていただけ、あかねちゃんに利用されていたのがとてもいやだったという気持ちがよくわかりました。

●「あたしは、この人らや。この人らが、あたしや」という言葉が心に残った。

●その後、莉緒が、自分が誰かわかるといいな、探せるといいなと思いました。

平成28年11月6日